

平成 19 年度第 6 回上田中央地域協議会会議録

日 時 平成 19 年 9 月 25 日（火）午後 1 時 30 分から 4 時 30 分

場 所 上田市役所本庁舎 6 階大会議室

出席委員 岡田委員、荻原委員、金子委員、河野委員、栗俣委員、小林委員、白石委員、田口委員、中澤正博委員、那須野委員、箱山委員、林委員、三吉委員、山内委員、山極委員

市側出席 清水都市計画課長、小相沢都市計画課課長補佐、児玉都市計画課主任
浅野まちづくり協働課地域振興政策幹、小宮山まちづくり協働課課長補佐

1 開 会（浅野政策幹）

2 会長挨拶（林会長）

前回 3 分科会に分かれましてご検討いただいた中央地域のまちづくり方針に基づく中心市街地の活性化の推進について、今日も審議事項として皆さんのご意見を伺うこととなっております。

最初に都市計画マスタープランの地域別構想の策定についてということで、市の都市計画課から説明がありますので、よろしくお願いします。

3 会議内容

協議事項

(1) 都市計画マスタープラン「地域別構想」の策定について

（清水都市計画課長）

都市計画マスタープランの「地域別構想」の策定ということで、各地域協議会にご説明申し上げ、ご意見を伺ったうえで地域別構想をまとめてく予定です。

都市計画マスタープランにつきましては、旧上田市でも都市計画法に基づきましてマスタープランを作成することになっておりまして、都市計画区域が設定されておりました旧上田市、旧丸子町では、それぞれ平成 11 年、12 年頃にマスタープランを策定しております。4 市町村が合併し新市になりまして、合併協議の中でも速やかに新市一体のマスタープランを策定することになっておりまして、昨年着手いたしまして、平成 18 年度から 20 年度の 3 ヶ年で策定してまいりたいと考えております。昨年はアンケート調査を実施したり、基礎調査を進めてまいりました。今年から具体的に策定に入っているという状況であります。来年度にかけて説明会等を行い、まとめていきたいということになっております。

マスタープランですが、新上田市となって魅力ある都市となるために都市計画制度を

活用したまちづくりにつきまして、具体的土地利用のあり方、道路公園など都市基盤の整備方針を示すのが都市計画マスタープランでございます。大きく分けて全体構想と地域別構想があり、全体構想については市全体の都市のまちづくりの方針を示していくものであります。

これから検討をお願いするマスタープランについては、総合計画を上位計画としまして、都市計画、まちづくり、ハード関係、都市施設、土地利用についての都市計画部門のマスタープランという位置付けになっています。そのプランが全体構想と地域別構想となっております。総合計画の地域まちづくり方針を各地域協議会から答申いただきましたが、総合計画が上位計画になります。この地域まちづくり方針は、今後のまちづくりの構想等を盛り込んだものですが、それに則った形で今度は都市計画の地域別構想ということで、具体的に道路、公園、このあたりの土地利用はこのように変えていったらどうかとか、そういったことを地域別構想で方針として示していければということでございます。各地域ごとに将来のまちの姿につきまして、地域の皆様のご意見やご提言をいただきながら策定していきたいと考えています。地域協議会の皆さんには地域の代表として、この地域の特徴や資源を生かしながら将来のまちはこうなって欲しいというようなご意見・ご提言をいただければと思っております。ただいただくご意見がすべてマスタープランに反映されていくかどうかは難しい面がございますので、ご検討を進めていく中で、大事なものについて記載をするという形で、メリハリのある地域別構想としていければと思っております。

また、地域別構想だけではなく、策定するにあたり今上田市が抱えている都市計画の関係で重要なテーマが4つほどございます。都市計画区域の見直し、用途地域の見直し、都市施設、主に道路・街路関係の見直し、地区計画の活用といった4つの大きな課題があるということで、それについて考えていければと思っております。その中でこの中央地域協議会に関係するものが、都市計画区域に旧上田市全体が入っておりますので、用途地域の見直し、都市計画道路の見直し、地区計画などの都市計画制度の活用というものが該当するのではないかなと思います。こういったテーマにつきましても、ご意見をいただければと思っております。ちなみに都市計画区域の見直しと申しますのは、旧真田町と旧武石村には都市計画制度がございませんでした。新市となり4市町村が一体となった都市計画を進めるため、都市計画区域を見直していくかどうかということでこの見直しというものも大きなテーマになっています。こちらは主に真田、武石それぞれの地域協議会でご意見をいただければと思っております。

詳細につきましては担当者から説明をさせていただきますので、今日からこの地域別構想の策定が始まるということで、ご協力をお願いしたいと思います。

(小相沢都市計画課課長補佐)

都市計画マスタープランにつきまして、概要からご説明申し上げます。

資料1「上田市都市計画マスタープランについて」により説明

(児玉都市計画課主任)

地域別構想につきまして、変更の基になる資料あるいはスケジュール等についてご説明申し上げます。

下記資料により説明

資料 2 「地域別構想」について

資料 3 「まちづくりアンケート」の結果

資料 4 地域協議会における検討スケジュール(案)

別紙 1 建物用途別現況図

別紙 2 都市計画現状図(中央地域)

(林会長)

今それぞれ担当の方々から説明がございましたが、何か質問はございますか。

(白石委員)

最終的にでき上がるマスタープランの書面形式は、資料 17 ページから書面に入るのか、それとも 18 ページの方針から入るのか、確認させていただきたい。

(清水都市計画課長)

17 ページは現状とか課題ということでありまして、マスタープランの中でも現状や課題を掲載し、その現状、課題を踏まえての方針という形でまとめていきたいというものであります。

(白石委員)

意見書の中に現状について記載する欄がないが、どうしたらいいか。

(清水都市計画課長)

作るときも事務局でどうしようか考えまして、課題があるからそれに対応するために方針が出てくるところが当然考えられますので、当初は土地利用の方針としたが、自由な意見で、課題まで含めて記載していただければ、内容を事務局で整理させていただき、課題に対して方針も必要ではないかということで、そのような形で見直しすることも考えていきたいと思っております。課題も含めて書いていただいても構いませんので、自由にお書きいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

(白石委員)

道路整備の中で、市道以外の県道や国道などの整備についても書いていいのか。

(清水都市計画課長)

市民生活に関わるものであれば、国道、県道等について記載していただいても構いません。

(小林副会長)

実際委員としての希望を記載して本当に通るのかどうか。景観条例という形で議会で採択をしているが、今もって進展がないという現状であり、その間にも高層の建築物があちこちでできている。建てた物を壊せというわけにはいかないと思う。その辺の調整は都市計画としてはどう考えているか。

(清水都市計画課長)

今回のマスタープランに高さ規制の方針を記入するとともに、都市計画による高さ規制の導入も検討していきたい。また、景観マスタープランも策定作業中であり、具体的な方針の記載や景観条例への位置づけなども検討する。

(小林副会長)

J T跡地問題の公聴会が開催されるというお話だが、用途地域に関して専門家は理解をしていると思うが、自分の住んでいる地域がどういう地域かということすら、一般市民は知らない。ある程度市民に理解と協力を得るため、そういう機会をつくるとか、書面を配布するなどの考えはあるか。

(清水都市計画課長)

近所に高層マンションが建つように、近隣住民が知らないうちに建設が進むケースはよくあるが、事前周知の必要性は感じている。都市計画では法に定められているが、そうでない場合について、何らかの方法で周知されるようにしていきたい。

(小林副会長)

意見記入シートというのはどうしても追加、あるいは修正して欲しいという各自の願いを記入すればいいのか。

(清水都市計画課長)

一個人というよりむしろ市民の立場で必要性が高いと考える内容を記載してほしい。意見をすべて都市計画マスタープランに載せることは難しいが、皆さんで大事と考える内容を載せていきたい。

(小林副会長)

用途地域変更に伴い、当然評価が変わるので固定資産税もかかってくる。一般論で結構なのでそういう様なこともお教え頂きたい。住民の瞬間的な判断では収まらないようなこともいくつかあるであろうし、ある意味「行政側の公開して指導する」という姿勢を示して頂ければと思う。

(清水都市計画課長)

固定資産税評価額は3年ごとに見直される。一般的には、商業系用途地域の方が住宅系よりも評価は高い。

(林会長)

では検討いただいて、ご意見のある方は10月5日までに無記名でいいので、都市計画課へ送付願いたいと思います。お帰りになって再度熟読していただければ、ある程度構

想が出てくると思う。

(清水都市計画課長)

10月5日までということをお願いしたいと思います。

(林会長)

もう一回お宅へ帰られてから熟読していただきまして、読めばご意見はたくさんあると思います。10月5日までに提出をお願いします。その後開催し検討を進めていくか、ここにやはり今中央協議会の課題として、地域の活性化の問題を絡んでいますので、そんな点でもご意見が出るかと思います。よろしくをお願いしたいと思います。

都市計画課の皆さん、ご苦労様でございました。

審議事項

- (1) 「地域まちづくり方針」に基づく、中心市街地活性化の推進についての中間報告に向けた審議(第2回意見交換)

- グループ審議 -

(浅野政策幹)

〔グループから発表をお願いします。〕

(三吉委員)

共存の考え方としまして、衣食住、これが基本でございますので、生活者と店主あいは自治会、その町の自治会と懇談会を開催し意見交換をしてく。やはり住んでいる人達が住みよい場所、またそういう人達が増えてくれば商店街もまた活気を帯びてくるのではないかということで、基本はやはり衣食住について、地元の皆さんと懇談するという事ではないかという事です。

もう一つは、もてなしの心ということで、この地域はやはり一番はもてなしの心が大事だなあとということであります。実は私 8月に市長と下関へ行ってきました。下関市とこれから都市間交流を進めていこうということで企画しまして、ようやくそれが実現し上田から23名訪問しました。下関市の方は、200名の市民の方々が歓迎してくれました。市の三役をはじめ、全管理者が一同に集まり歓迎していただきました。管理者が一同に集まることは滅多にないそうですけれど、せっかく上田からお見えになるということで、集まったということであります。やはり下関は表玄関だなあと、表玄関に居る人達のもてなしの心はすごいと感じたところです。バスが着きましたら、3名の女性の観光ボランティアの方がお乗りになりまして、歌を歌ったり、案内をしてくれました。ちょうど真夏で、一番暑い中でしたが、行く先々では神社の宮司さんがもう机の上に冷たいものを置いて、よくいらっしやいましたということで歓迎をしてくださいました。これは上田

から行ったから対応していただいたのかなあと思ったところ、見える方達全員にそういった対応をしておられるということでした。

上田は信州の奥座敷でございます、まず玄関に来た時「おたくは何しに来たんだ」と、というのが一番最初でございます。話を聞いて、「そうかそれじゃわかった」ということで玄関でお帰りになります。内容によってはそうか、「それじゃ上がれや」ということで、ようやく居間に入ってお茶と漬物で、「どうするべ」という話になるということでもあります。奥座敷と表玄関の違いは大変なもんだなあというふうに思いますが、やはりこの中心市街地、これからもてなしの心というものが一番基本ではないかと、そんなことでCグループは話し合ったところでございます。

(浅野政策幹)

続きましてAグループの発表をお願いします。

(栗俣委員)

Aグループの6項目にまとめたわけですが、無理やりねじこんだところもございまして、ご勘弁いただきたいと思えます。

まず街案内、これはどういうことかと申しますと、観光案内ではなく案内図になれるようなガイドさんですね。その方に聞けば案内図を兼ねるようなそういう方、ボランティアでもいいですが、そういう方を置いていただいて、そして外から見えた方々に、手際よく上田の街の状況や様子をさっとわかっているようなそういうシステムというものがあるのではないかということでございます。街の案内板が日替わりで、今日はどこで何をやっているということも、催し会場とも関連しますけれども、リアルタイムとまでいかないまでも、その日にいらした観光客に今日はこういう催しも開催していますと、それで観光客の希望を聞いてこういうお店もありますとか、細かく街の様子をガイドできるようなそういう人が欲しいということなんです。それから標識・表示・案内図が相当上田市内も整備されており、歩いていけばよくわかるのですが、車でさっと通ったのではなかなかわかりづらい面もありますから、車で通っても40キロくらいのスピードで、ここにはこういう店があるんだな、ここはこういう感じの場所なんだなということが、一目瞭然でわかるようなそういう表示がほしいということだと思えます。中央に掲示板がほしい、市の行事とか、店の場所、種類別の表示、それから3人くらいで座れるようなベンチがあちこちにあるのではないかと思います。

それから上田城中心に緑と街並み、もう少し工夫があってもいいのではないかなというような声もあります。それから高齢化率が上田市の場合20パーセントを超えています。これは総人口に占める65歳以上の方が7パーセントを占めれば、これはもう高齢地域というように国連が基準として決めているわけですが、上田市はもう3倍に近づいている。ところが、この中央公民館のこの管内は25.7パーセントで、4人に1人が高齢者です。そうした場合、高齢者の方がやはり気軽にあちこち動き回れるような街並みというものも大事ではなからうかと思うところです。おっかなくて出られないなんていってひっこ

んでいるのではなくて、弱者扱いされずに俺は元気なんだというふうに意識をもって、自由自在にあちこちを移動できるようなことも大事ではないかなと思っています。これが街案内の項目です。

次にお店の件ですけれど、専門店がありますが、あまりにも限定され専門化してしまって、逆に欲しいものがないというようなことです。あまり専門化するのではなく、だからと言って間口を広げてしまうと専門店ではなくなってしまうということで、その辺では市民の要望とお店の経営との間に、少しズレがあるのではないかと思います。ベビー服、子供服、買い物したくてもないという声があります。それから食料品店を増やして欲しい、スーパーがないので不便だ、上田の目玉は何かということもはっきり市民が共通認識として外部の人には説明できるような、それから各ジャンルの専門店ができればいいのではないかとか、店の品揃えが不十分ではないかということです。それから周辺にないものを売り出して欲しい、またお年寄りが気軽に行けるようなお店が欲しいとか、デッキタイプのお店もあっていいのではないかと、こういったアイデアが出されております。

次に「宣伝」というような表現にまとめましたけれども、広報・PR活動が足りないのではないかということです。観光ガイドできる人の人材育成だとか、それから駅前に観光ガイドの大きなマップが設置されれば、便利ではないかとか、チラシ広告に町名、建物が違っているものがあるので、常に最新の案内図に更新していくということ、それから上田の美味しいものはなんですか、と聞かれても、一言で答えられない面がある。飯島商店のみすず飴だけでは、少し寂しいと思うわけです。もっといくつか口に出せるようなことも大事ではないかと思っています。それから上田の観光案内所が駅の中にあることがわからないので、別のところへ案内所を設けて欲しいということです。

観光交通ということで、これは市内にはオレンジバスがあります。このバスの運行を更にきめ細かく各地の高齢者が随所で利用できるようにということです。それからタクシーの運転手のサービスが悪いということで、駅前に20台くらい待機していますが、サービスを良くして欲しいということです。それから観光客がレトロ気分で味わえるように人力車を復活させるとか、そういうアイデアも出ております。それから駐車場、今はずいぶん増えましたが、まだまだ足りないので確保して欲しいと思います。新幹線で上田駅に下車してもらいたいので、上田のまちはこんなにいいまちなんだ、ということを市民にまずよく理解して頂いて、市民から外部へ発信していただく。それから歩きやすいまちづくり、これは大分整備がされてきているが、例えば案内標識等をさらに充実させ、柵が多く木も少なく景観もよくないので、なんとなく歩いて回りたくなくなるようなまちをつくるということです。

催し会場としましたが、これは寄席のようなものもないし演芸場もございません。会議とか講演会が催されていても、誰がどこでどんな内容のことをやっているのかということとはわからないですね。そんな情報もどしどし流して共有できるということが大事

ではないかなと思います。空き店舗を利用したおみやげ店、それから人と会う場所の整備が必要である。高齢者は、ちょっと人と話したくても喫茶店というわけにいかない。だから廃屋だとか遊んでいる店舗などを安く借り上げて、そういう場所で雑談でき、セルフサービスでお茶を飲みながらしばし時間を費やせるようなそういう場所があってもいいのではないかということです。遊休地を活用して薬草園を開設して、市民の健康向上に寄与していく。これは市長との懇談会の中でそういう声が出た時に、ある部長さんが薬草園を作るといことも構想の一つとしてあるというお話をされました。

次に歩道や広場にテラス風のテーブル、溜まり場がほしいと思います。ちょっと腰掛けて、街並みをそれとなく眺められるようなそういう憩いの場があってもいいのではないかということです。そして、冒頭にも申し上げましたけれど、高齢化社会ということで、4割から5割の方はお年寄りです。しかも65歳以上です。これはもう厳然たる事実ですから、そういう方々が動いてお金を落とすような仕組みを考えていかなければ、金の無い者が動き回っていたってこれは意味がないわけです。だからとても大事なことでないかなと思います。

それからお店の閉店時間が早すぎる。午後7時になればもう閉まってしまう。袋町は遅くまで開いており、そうでないお年寄りが行きたい店は閉まっているというようなことです。

次に公共会館がどんな催しをしているか、中央で生活している住民としてはもっと知りたいと思います。情報をもっと流して欲しいと思います。それから会議、講演会、コンサートの場所作り、これは施設ですね、そんなに立派なものでなくていいと思いますが、とりあえずは会議や講演会を気軽にグループで開けるようなそういう状況をという声だと思います。

最後にサービス向上ということで、先ほど三吉委員さんからも発表がありましたが、おもてなしの心が少し欠けているのではないかということでもあります。店づくりに工夫をして欲しい、対応の方法を勉強して欲しい、食事の工夫をして欲しいということが出されました。それから中心市街地の方々の意識向上をやはり期待するというので、これはどの業種に限らずサービス業が多い時代ですから、サービス向上ということはとても大事なことでないかと思えます。

Aグループは以上でございます。

(浅野政策幹)

ありがとうございました。それではBグループお願いします。

(荻原委員)

Bグループも一応他のグループと同じ視点でものを見ました。どうしたら人を集めることができるのか。観光客とか、居住している住民がどうしたら集まるのだろうかという視点と、先ほど出ましたが、高齢化が進んでおり、更に進んでいくのでお年寄りが高齢化をどう捉えていくのかということと、あと上田のまちは、人口の割には短大、大学が多

く、高校もいくつもあるし、それに伴って子供達も多いので、子供とか学生が多いという視点でものを見てみたいと思いました。何よりもこの中心の人たちが何を望んでいるのか、といったニーズをもっとしっかり捉えていく方法を考えていきたいということと、あとその中でも今話題になっているのが大型店舗のことがあったんですけど、ただそれをどうこうということではなくて、もっと住民と商店と大型店の人たちがどうやったらいいものを作っていけるか、まちづくりを進めていくことはできないかという視点で検討しました。

まずやはり高齢化ということで、いろいろ出たわけですが、今上田の街は生鮮食料品の店が無く、とても不便ですからそういった店が欲しいということと、高齢化になるにつれて、やはり自分の足で歩いて買い物ができることも大切ではないかと思います。ただ高齢者の一人暮らしもこれから増えますから、たくさん買うから安いということではなくて、少し買っても安いといった、例えばおかずの計り売りなどの惣菜店がもっとあれば、これから街の中は経営していけるのではないかといった意見も出ました。それに伴いまして、街の中とその周辺を考えますと、やはり公共交通をこれからはもっと工夫して見直しをして使える方向にしていけないといけない。長野病院までのバスがまだ本数が少ないと思うので、そういった公共交通のことも考えていきたいと思います。

また買い物に来て、そのまま帰ってしまうのではなく、気軽にお茶が飲めて、何気に休めるスペースがあれば、やはり街の中にいろいろな世代の人が集うのではないかと思います。ただ買い物だけに来てさっと帰るといったことでは、絶対街の中は繁栄しないわけですから、最低 3 時間くらいの無料の駐車場を将来的に出来る方法がないかと思えます。3 時間ですと、映画を見てお茶をすることができるわけです。買い物して食事もできる。それぐらいあると、常に街の中に人がいるという感じがすると思います。

高齢化に伴いまして、実は私たちの住んでいるテリトリーには、長野病院があり、ハードとしていい病院がありますから、もっと充実させることで「安心して上田は暮らせるね」ということで、定住してくれる人が増えてくれないかといったことも考えております。その定住に伴いまして、今店舗の方々が街の中に定住していなくて、郊外に出ているということで、営業時間の短縮化につながっていると思いますので、街の中の定住ということについても考えていけたらと思います。

今度、若者という視点で見ますと、上田の中央地域の住民がどんな店が欲しいのか、必要なのかってことをやはり一度アンケートをとって、それに基づいて計画を立てていけたらいいと思います。その中で空き店舗をどう利用したらいいか、起業家をどう募って、どう皆が助けていけるかということも見えてくるのではないかと思います。具体的には、学生が多いので、お弁当とかカフェができるもの、もっと若い人たちが利用できるフルーツパーラーとか喫茶店をもっと商店街の中で考えられないかと思います。いずれにせよお年寄りも若い人も楽しいと思える街になっていかないと、人は絶対集まらないなと思いました。もっと、大きな市民会館でなくても街の中で、今まで以上にコンサ

ートとか展示会が出来るスペースを増やしたり、また有るものを活用して毎日街に来るとコンサートやってます、展示やってます、落語を聞けます、というようになれば楽しいと思います。

子供の視点で見ますと、今児童館、こども館が学校の中にあるわけですが、それをもっと街の中に移転するということができないかと思います。街の中に逆に高齢者が住む住宅とか、子供のための施設とかが合体して本当に近くで異世代の方々が交流できるスペースが欲しいなと思いました。逆に若い人ですと車でいいですが、子供とある程度の年齢の人が街にいれば、若い人も何かの都合で町に来てくれる可能性もあると思います。

観光についても話が出ましたので、自然と観光という視点でものを見ますと、駅からの街の中への道、中心地からお城までの道、中心から中央公民館、一番のメインなわけですが、そういったところから、逆にちょっとした駐車場のまわりに木々を10年なり20年なりの計画で植えていくことで、本当に誰もが信州って言ったときに思い描く、緑の街になりますので、観光客にとっても住民にとってもいいのではないかと思います。それだけではなくて、どうせなら裏道の楽しさとか、まっすぐな道だけではなくて、蛇行させて樹木を整備したり、小川を作ったりベンチを置いたりということで、やることは何でもやってみた方がいいなと思います。それで商店、街の中を散歩して歩くことで、購買欲も出てくるのかなと思いました。

観光客の受け入れの件ですが、今折角桜を見に来ていただいているわけですが、上田城の付近に食事をするとところとか、お土産を購入する、そういったものが少ないのももっと欲しいなって意見があります。それに伴って上田城だけでなく、上田にはいろいろな観光名所がありますので、もっと観光客が受け入れられるような体制づくり、観光会館とか食事処をもう少し街の中につくって、街の中まで人々が来てくれるような集客できるようなものが欲しいと思います。これ一冊見れば上田がわかるみたいな分かり易いガイドブックがあればいいなと思います。

最後になりますが、お店の方はやはり他のグループと同じでした。ただやはり中央商店街と大型店の共存を真剣に考えるような努力、姿勢が本当はもっと欲しい、と住民として思います。市民の購買欲をくすぐるような商品を揃えて欲しいということと、具体的に言えば1店舗1品ということで、いくつもではなくそのお店にたった一つでも特色のものがあれば、それが街中にあると20も30も特色のあるものが上田でできるということで、なんらかの形でお店の人たちがそういった工夫もし、また住民もそれに応えていけるような形にしていけたらいいと思います。要はお店の専門化ということを目指しています。あとはサービスの付加価値、お客様の接客、対応がまだ昔のままです売っているというところが感じられるということで、そういった対応も工夫して欲しいなと思います。

あと営業時間のことがやはり出まして、朝やはり8時くらいから空けて欲しいという意見と、夜もせめて8時くらいまで開いていると、買いに行ける時間の幅が広がって助

かるかなという意見が出ました。以上です。

(浅野政策幹)

ありがとうございました。3つのグループすべての発表が終了したわけですが、それぞれの発表を皆さんお聞きになって、何かこのグループのこの意見はどうかなっていうようなご質問とか、ご意見ございますか。

特になし

(浅野政策幹)

特によろしいですか。だいたい皆さん納得できる内容だったと思います。

突飛な内容のものもなく、非常に落ち着いた内容だったと思います。今回の意見は、事務局でまとめさせていただき、次回の会議へ提出させていただきます。今度はいよいよ現実的に今まで出されたいろいろなご意見を、この協議会として意見を出すのにどういふものが相応しいか、ということ全体を考えていきたいと思ひます。その方策を含めて考えていけたらと思ひます。誰が推進していくのかということも非常に重要な問題ですので、その辺も併せて考えたいと思ひます。一つでも実現できるような形で、協議会の力を出していけたらと思ひますので、よろしくお願ひします。

では先ほどの会議の席に戻っていただきまして最終の詰めということになりますのでお願ひします。

(小林副会長)

お諮りをしたいわけですが、先程私共Cグループで検討している中で、10月5日までに各自の意見を寄せ合ひましょうという意向でございました。よくよく考えてみますと、今日ここで喋って語り合っていることがそのほとんどなわけですが、各自に戻しても、同じことだと思ひます。二度三度の手間を掛けることがいいのか悪いのか、という話を実はCグループは行った。今日の話の中には商店関係の話が非常に多いわけで、商店関係の話については、即行政は返事を出せないわけですよ。サジェスチョンしても、それに対する商店側の回答というのはいつ寄せられるのかわからないわけですから、あくまでも都市計画というのは、ハードの部分でどうしたいというのが中心になると思ひます。各グループでご検討いただいた中で、これだけは絶対外せないというものを各ジャンル別に1項目なら1項目ずつ書いて出しておいていただき、その間に事務局で、今日出していただいた意見を全部フィードバックしていただく。次回は、それらの意見のフィードバックしていただいた中から、どれとどれを中央協議会として最終の要望案として出す、あるいは審議案として提出しますというような方向にもっていったらどうかと思ひますが、いかがでございましょうか。

(白石委員)

今日出した意見というのは、どの意見のことですか。

(小林副会長)

先程皆様方で書いた意見です。

(白石委員)

この5日というのは、全然違う内容ではないでしょうか。

(小林副会長)

今私が申し上げているのは、今日いろいろと審議しましたが、自分で気づかないことを他の方がご意見として出されたことも踏まえて、ジャンル5項目ですか7項目ですか、ありますよね。

(白石委員)

今日のグループ審議は、中央地域の賑わいを取り戻すということの中で進めていることで、アンケートのこととはダブる部分もありますが、違うテーマだというふうに私は認識しているのですが、どうでしょうか。

(小林副会長)

おっしゃる意味はわかりますが、いずれにしても最終的には中央協議会として、一つの方向づけを出さなければならないわけです。ですから今日のABCのグループの意見を参考にして、それぞれの意見は、まず10月5日までに都市計画課へ出す。都市計画課でも、まとめたものを我々にもフィードバックをして頂くということです。

(林会長)

今小林さんが言っているのは、中央商店街だけの問題である。白石委員さんは、いわゆる中央地域全体の面からおっしゃっている。だから少し違うのではないかと思うところである。今日のことは、中央商店街のいわゆる中央地域の活性化についての問題です。もう一つは、例えば土地利用だとか道路交通だとか関わる点もあるが、防災の点は一つも出てきてはいない。例えば、中央地域に防災センターみたいのはいつもないし、こういうのをどう取り組んでいくのか、という点も考えていかなければならない。例えば神川の防災センターとか、南部防災センターとか東部防災センターなどあるが、大きな施設ではないし、中央地域の住民が安心して災害があったときに拠り所ができるようなものということになると、今日の意見とは少し違う気がする。

(白石委員)

今日の議題(1)の都市計画課の皆さんが説明してくれたことと、今行ったグループ審議のこととは、違うテーマについて論議していると私はずっと認識していましたので、それを一緒にしてしまうのはおかしいのではないかと私を申し上げたということでもあります。一番のことは、都市計画のマスタープランについてアンケートから始めようということだったと思いますし、これはまちづくり方針というものに則ってその中で中央地域の活性化がないからそれについてどうしたらいいか、ということが最初の皆さんのアンケートの中で多かったから、それについて検討しているということ、違うテーマについて検討を進めているというふうに、私は認識していると申し上げたところです。

(小林副会長)

白石委員さんのおっしゃる通りです。まず我々が出した意見を行政側からフィードバックしてもらいたいとお願いしたいことと、それからそれらも交えて 5 日までに間に合うようなんとかしたいなという話を申し上げたわけです。

(林会長)

このアンケートはアンケートで、皆さんでそれぞれお書きいただき、無記名で出してください。それから今日それぞれ A B C のグループから出していただいた意見は、事務局から説明のあったとおり、次回にある程度もう少し固めて、それで中央協議会の意見ということで、ここ一月以内くらいにまとめて出さなければいけないと思うわけです。白石委員さんのおっしゃるように、都市計画の方は少し視点が違うような気がするわけです。例えば染屋台の段丘だとか、例えば歴史ある柳町だとか紺屋町だとか、常入方面だってあるし、踏入のまち並み保存だとか、千曲川、矢出沢川、神川の関係、こんなものもあると思うし、少し視点が違うような感じがする。それは都市計画課と連携し、我々の任期中にまとめていけばいいということで、先程 5 回くらいというような説明があったわけですが、そういうことではないですかね。

(三吉委員)

その日程ですが、都市計画課から 5 回の日程でまとめていきたいという説明がありました。これですと、毎月マスタープランについて検討することと、今日進めたことを両方進めていかなければならないということになると思う。ですからこれは 5 回の中で検討していくということではなくて、もう少し短縮して進めた方が私はいいと思います。

そうでないと、このスケジュールでいきますと、毎回マスタープランと、もう一つ今まちづくりのための我々の進めている作業を進めていくという二手でやっていくと思うんですけど、5 回開かなくてもアンケートが出てきたものをまとめれば、年内くらいにまとめて出してしまった方が、後の時間をもう少しこちらの方に費やした方がいいような気がします。行政の方で組んでいる日程ですので、この通り進めなければいけないものかどうか、まとめが早くできればそれでいいのではないですか。

(浅野政策幹)

おっしゃる通りだと思います。それで先ほど都市計画課長も申し上げましたが、5 回必ず開催するというのではなくて、5 回くらいでまとめようということですので、この協議会の場合は、多分早くまとまると思うところです。そういうことで時間は、短縮できるようになるはずですよ。先ほどの意見ですが、やはりこの主旨は違うわけですね。都市計画課が求めているデータと、今日ワークショップでやったデータは、若干違いますので、その辺は 10 月 5 日までに個々に書いていただき出してもらおうこととお願いします。今日書かれたもので、この地域別構想に該当するもの、それは私たち事務局サイドで都市計画課へ上げていくという方法でいかがでしょうか。双方で出し合っということでどうでしょうか。

(林会長)

今の事務局の方でおっしゃった点、よろしいですかね。そういうことでご理解いただいて、マスタープランに関してのご意見はご意見で、各委員さんからいただくことをお願いします。それで、今日のところで申し上げたようなことがある場合は、中央協議会の協議、討論から上げていただくことで、それは別で出すということでもいいかなと思うところです。そんなことでよろしいですか。

了承

(林会長)

では今日は長時間にわたりご審議いただきましてありがとうございました。今日の協議会はこれで終了させていただきたいと思います。ご苦労様でございました。